

「湘白」(神奈川県育成白首ダイコン)栽培指針

神奈川県農業技術センター

1 品種の特性

- 白首総太りで先端部のつまりが良く、形状は揃う。
- 生食でも甘さが強く、肉色がとても白いので、サラダ、ツマなどにも適する。また、おでん、煮ダイコンなど加熱調理しても煮崩れしにくい。
- 葉は生長がよく柔らかで、毛じが無いため食感がよく、味噌汁の具など幅広い料理に適する。



2 標準作型

○:は種、□:収穫

作 型	8月	9月	10月	11月	12月	1月
秋まき		○	—————	□		
秋まきマルチ		○○	—————	□		
秋まき(三浦半島)		○○	—————	□		

3 栽培のポイント

- 9月中下旬まき年内どりの作型において、品種の特性を最も発揮する。年明け後に収穫する作型では、根部先端の形状、食味が劣り、抽根部が緑色を帯びることがある。
- 一般の青首大根品種に比べて、
 - ・ 葉が大きくなるため、基肥の窒素量をやや控える。
 - ・ 生育がやや早いので、収穫開始時期も早い。また、収穫期に入っても、根部肥大が続くので、採り遅れないよう注意する。
 - ・ 根部の生長(伸長や肥大)に差があるため、適期の大きさのものを選んで収穫する。
 - ・ 裂根しやすいので、排水等ほ場条件に注意する。また、収穫・調製後もひびがはいることがあるので、取扱いに注意する。

4 栽培管理

(1)土作り・施肥

土作りは、一般の青首ダイコン品種栽培に準じ、堆肥はなるべく前作の時に施用する。苦土石灰は土になじむように、は種の1ヶ月程度前に畑全体に施して、根が伸びやすいように深く耕す。

施肥については、一般の青首ダイコン品種栽培よりも基肥窒素量を控える。

(2)は種

点まきする。一般の青首ダイコン品種の地域慣行に準じる。

(畝間 45~50 cm、株間 21~30 cm(三浦半島では 18~27cm)程度)。

1ヶ所3粒をまき、覆土、鎮圧し、乾燥している場合にはかん水する。

(3)間引き

一般の青首ダイコン品種と同様に、本葉5枚前後の頃に1株になるように間引く。生育が滞っている株や生育が早すぎる株を間引いた後、株元に土寄せする。

(4)追肥・土寄せ

一般の青首ダイコン品種よりも草勢が強いため、基肥主体の場合には無マルチ栽培でも追肥は必要ない。基肥が少ない場合は、条間に追肥し、中耕・培土を行う。

(5)病虫害防除

一般の青首ダイコン品種と同様に防除を行う。キタネグサレセンチュウ、キスジノミハムシ、ハイマダラノメイガ(シンクイムシ)、カブラヤガ等のネキリムシ類、アブラムシ類、ナモグリバエ、軟腐病、黒斑細菌病、白さび病などの防除対策を行う。

(6)収穫

根部は、吸い込み型で抽根部が短いので、根部の太さをよく確認して収穫する。首部直径8cm程度が適期である。

○栽培に関する問い合わせ先

神奈川県農業技術センターの各部所にご連絡ください。

- | | | |
|------------|--|--------------------|
| ・普及指導部 | 平塚市上吉沢1617 | 電話 0463-58-0333(代) |
| | 平塚市、鎌倉市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町、大磯町、二宮町、愛川町、清川村 | にお住まいの方 |
| ・横浜川崎地区事務所 | 横浜市緑区三保町2076 | 電話 045-934-2374 |
| | 横浜市、川崎市 | にお住まいの方 |
| ・北相地区事務所 | 相模原市緑区寸沢嵐620-2 | 電話 042-685-0203 |
| | 相模原市 | にお住まいの方 |
| ・三浦半島地区事務所 | 三浦市初声町下宮田3002 | 電話 046-888-3324 |
| | 横須賀市、逗子市、三浦市、葉山町 | にお住まいの方 |
| ・足柄地区事務所 | 足柄上郡開成町吉田島2489-2 | 電話 0465-83-5111(代) |
| | 小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町 | にお住まいの方 |